地方銀行発、スマホアプリで地域活性化!

IT事務部 長谷川 統也

- 近年、多くの地域できめ細かく鮮度の高い地域情報の発信や地域商品券・地域限定クーポンの提供等、暮ら しや観光に役立つサービスを提供するスマホアプリが登場しています。
- **そうしたアプリの中には、地域のデジタル化の推進や地域内外の交流の増加、キャッシュレス決済手段の浸** 誘等により地域活性化を図るべく、地方銀行が積極的に関わっているものがあります。
- 本レポートでは、地域の企業・自治体と協力しながら、アプリ提供を行い、地域活性化を目指す地方銀行の 事例を紹介します。

はじめに

みなさんは、日々の暮らしの中で、どれだけスマートフォ ン(以下、スマホ)を利用していますか。情報の収集や公 共交通機関・買い物の支払いなど、日常のほぼすべてのこ とがスマホで対応できる環境になっています。

総務省の情報通信白書によると、2023年のスマホの世帯 保有割合は9割を超えており、端末別のインターネット利 用率はスマホ(72.9%)がパソコン(47.4%)を大きく上 回っています。また、経済産業省が公表した2023年の キャッシュレス決済比率は39.3%となっており、中でも コード決済の割合が年々高まっています。

こうした状況を背景として、地域のデジタル化の推進や地 域内外の交流の増加、キャッシュレス決済手段の浸透等に より地域活性化を図るべく、地域情報の発信や地域商品 券・地域限定クーポンの提供等、暮らしや観光に役立つ サービスを提供するスマホアプリ(以下、アプリ)が登場 しています。そうしたアプリの中には、地方銀行が積極的 に関わっているものも少なくありません。今回のレポート では、その一部を紹介します。

南九州の魅力を発信 ~Hugmeg(九州フィナンシャルグループ)~

普段生活している中で、こんなイベントが近くでやってい たんだと、イベント終了後に知ったという経験をされたこ とはありませんか。これから紹介する「Hugmeg (ハグメ

\$ + 口座を登録する 話題の記事 ファイナンス ∜ \mathfrak{F} 生活・くらし L

▲ ハグメグの画面イメージ 。九州FG提供。

歳 c グ)」では南九州に関する 様々な情報を知ることがで きます。

> 「ハグメグ」は肥後銀行と鹿 児島銀行の親会社である九 州フィナンシャルグループ

(以下、九州 FG) が2021年 12月にリリースしたアプリ です。「ハグメグ」という 名前には、ハグ「Hug」した くなるような毎日を届け、 暮らしの中にもっと幸せを めぐ[Meg]らせていく、と いう想いが込められていま す。

九州 F G は、「10年先、 地域にどんな地銀があるか によって、その地域 の未来が変わる」と いう考えのもと、新 たな事業への挑戦・ 事業領域の拡充に取 り組んでおり、その 🔺 ハグメグのコミュニケーションワー 手段の1つとして



ド。九州FG提供。

「ハグメグ」を位置づけています。「ハグメグ」では、銀 行の口座開設や残高照会などが非対面で利用できる金融機 能だけでなく、非金融領域の「地域価値共創機能」とし て、南九州に関する観光地情報から地元の人でも見落とし がちなイベント情報まで幅広く発信するなど、使いやすい 多様なサービスを提供しています。

たとえば、「地域の魅力発見」や「おでかけコンシェル ジューでは、銀行のお取引先企業、地元の自治体や新聞社 等から耳寄りな情報を仕入れ、アプリ利用者に発信してい ます。「ハグメグ」の利用者拡大に伴って、地元の自治体 や観光協会からも地域の魅力を紹介する1つの有効な手段 として評価され始めており、「ハグメグ」への掲載を依頼 されるケースが増えています。

また、シェアサイクリングのサービス「チャリチャリ」を 提供している「チャリチャリ㈱」とコラボし、「ハグメ グ」内でサービス利用料の割引クーポンを毎月提供してい ます。

熊本市は、2022年より、「チャリチャリ」と連携し、中心市街地にシェアサイクルという新たな移動手段を導入することで、交通渋滞の解消、中心市街地の回遊性の向上に



▲ 「地域の魅力発見」:観光スポットやグルメなど地域の魅力を 発信(左)と、「おでかけコンシェルジュ」:南九州の直近の イベントや地元のスポットを発信(右)。九州FG提供。 よる地域経済の活性化を目指す実証実験を行いまの人が、「ハグメグ」を選集したの別のではない。 割引クーポンの提供アカックをあり、シェアが、本本は、カールのでは、大のの利用がある。 は、カールのでは、大ののでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールでは、カー

います。



このようなアプリ利用 ▲ シェアサイクル。九州FG提供。

者の暮らしに役立つ情報やサービスの提供により、「ハグメグ」のダウンロード数は右肩上がりで増加しています。

これからの「ハグメグ」について、九州 F G事業戦略部事業開発室の山中 陽典 マネージャーは、ただの情報発信装置にとどまってはいけないと言います。「『ハグメグ』に魅力的な機能が備わることで人が集まり、拡散力が高まるという流れを作ることが大切。『ハグメグ』により地域経済が盛り上がっていくことを目指し、機能をより魅力あるものにしていきたい」と語っています。

福井県ではこのアプリ~ふくアプリ(福井銀行)~

福井県には、県民の5人に1人が登録している「ふくアプリ」というアプリがあります。このアプリは、福井銀行が地元の新聞社である福井新聞社と共同出資で設立した、「㈱ふくいのデジタル」が提供しています。

ふくいのデジタルは地域のデジタルトランスフォーメー

ションを推進し、福井をより豊かで幸せにすることを目的に2022年9月に設立され、「ふくアプリ」を同年10月から提供しています。

「ふくアプリ」の特長は、日常のあらゆる生活シーンで利用を想定した機能が1つのアプリに集約されていることです。



▲ ふくアプリの目指す社会。ふくいのデジタル作成資料より。



「ふくアプリ」の機能

1 ふくいはぴコイン(デジタル地域通貨)

県内の全ての自治体(福井県内の17市町)が発行するプレミアム付き商品券や交付金、ボランティアポイントなどを「ふくいはぴコイン」で受け取り、加盟店で利用できます。

3 ふくいMaaS*

アプリ上で目的地までの交通機関情報を検索できるほか、観光客向けに、各市町の「観光施設、飲食店」と鉄道・バスなどの「交通」がセットになったお得なチケットを購入することができます。

2 情報配信

福井新聞のニュースや防災などの生活に役立つ 情報を配信しています。

4 その他

美術館などのデジタルチケットの購入やデジタルスタンプラリーの参加によるポイントの提供などお得なキャンペーンを行っています。

※ MaaSとはMobility as a Serviceの略で、地域住民や旅行者一人一人の移動ニーズに対応して、複数の公共交通機関やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス。

ふくアプリは、県内全自治体からデジタル地域通貨の共通 プラットフォームに採用されています。利用者は各自治体 のデジタル地域通貨を使った様々なサービスを、ふくアプ リを使うだけで受けられ、また、自治体は独自でアプリを 開発する必要がありません。

さらに、ふくアプリには、自治体ごと、施策ごとに「サイフ」を作成でき、自治体自身でデジタル地域通貨の管理や加盟店の設定等ができるという特長もあります。これにより、例えば、子育て支援に関する施策のサイフでは、ポイントを給付する際、福井県内の子育て応援店舗に認定されたお店のみポイントを利用可能とするなど、各自治体は施策の目的に合わせた運用ができます。

ふくいのデジタルの小林 拓未 代表取締役社長は、ふくアプリがここまで大きくなった理由として、地方銀行と地元新聞社が連携している効果が大きいと言います。新聞社が持つ紙面やデジタルニュースというチャネルを通じてアプリの使い方やキャンペーンを詳しく周知することができることに加え、自治体からの提案に対し、同社がこれまで培ってきたノウハウに基づいて、より効果的な施策となる

ようアドバイスが可能だそうです。また、地域で信頼感の ある地方銀行が力を入れて取り組んでいる事業であるから こそ、利用者は安心して利用できるとも話しています。

さらに、ふくいのデジタルは、ふくアプリを通じて収集したデータの分析も行っており、その結果を自治体等に還元しています。これによって自治体は新たな気づきを得ることができ、次の支援策に向けた検討に利用されているそうです。

例えば、国の事業である「全国旅行支援」において、2023年1月以降、地域で使える電子クーポンをふくアプリを通じて発行していましたが、アプリで収集したデータによると、福井県のある有名な観光地では、見込みよりもクーポンが使われていないということが分かりました。そのため、自治体や地元の観光協会等が中心となり、観光地周辺の駅などにお土産を多数揃えたスポットの造成、既存の施設のお土産ラインナップの拡充等が行われました。

このように、「ふくアプリ」の取り組みは、地元の自治体 あるいは事業者とともに地域経済を盛り上げる地方銀行な らではの取り組みと言えるのではないでしょうか。



各サイフが表示されます。

加盟店によって支払えるサイフが異なります。 加盟店にはチラシが貼られており、どの通貨が 使えるのかすぐわかります。

選択しているサイフの残高が表示されます。

サイフの種類によってクレジットカード・セブン銀行 A T M・銀行口座からの振替などチャージの仕方が異なります。

QRコード読み取り画面に遷移し、店頭のQRコードを読み込んで支払えます。

キャンペーンなどを周知するバナーが表示されます。





全国各地で導入されています ~まちのわ(筑邦銀行)~

特定の地域で使えるプレミアム付き商品券のアプリは、福 岡県など、九州地域で多くリリースされています。これ は、福岡県久留米市に本店を置く筑邦銀行などが設立した 「㈱まちのわ」の取り組みの成果です。

まちのわは、筑邦銀行、九州電力、SBIホールディング スの3社が「地域内で人とお金が循環する仕組みで地域経 済を活性化したい」との思いで集まり、共同で設立した会 社です。自治体や商工団体に対し、プレミアム付き商品券 を電子化し、QRコードで決済できる機能を持った、専用 アプリを提供する取り組みを行っています。

商品券の電子化は加盟店、発行主体、利用者それぞれにメ リット(下図参照)があり、商品券の魅力向上、ひいては 地域の消費拡大が期待されます。

加盟店

.. 紙の場合

- 商品券の現金化までに時間と手 間がかかる。
- 利用動向が把握ができない。
- お得情報やセール情報を利用客 に伝えて再訪を促すことができ ない。

発行主体 紙の場合

- 発行、販売や換金など事務負担が 大きい。
- 当せん葉書や商品券の印刷費など、 紙に関する経費が大きい。
- 商品券の購入層が限られている。
- 利用動向が把握が難しい。
- 不正利用が防止しづらい。

利用者

.. 紙の場合 ·····

- 抽選申込みがはがきであるなど、手 間がかかる。
- 特定の日にち・時間帯に当せん八ガ キを持って、指定の交換所へ行く必 要がある。
- 一定の金額単位でしか使用できない。
- 商品券を持ち歩く必要がある。



- 換金作業はオンライン上(あるいは 自動) で完結し、現金化する際の 業務負荷を軽減できる。
- 売上管理が容易。
- お得情報やセール情報をプッシュ通 知で発信することで、集客をすること



- 発行、販売や換金など事務負担が 軽減される。
- 当せん葉書の発送や商品券の印刷 が不要となるなど、経費軽減が期待 できる。
- 新しい利用者層の開拓。
- 利用動向の把握がリアルタイムに可
- これまで以上に不正利用を抑止。



- 抽選申込がアプリ完結でいつでもど こでも可能。
- 指定日時に販売所へ行く必要がな く、コンビニやクレジットカード等で購
- 1円単位で利用可能。
- 商品券の持ち歩きが不要。
- リアルタイムに情報を入手できる。

▲ 商品券電子化のメリット。まちのわ作成資料より。

また、電子化の推進は、単なる消費振興にとどまらず、地 域のDX化の推進、店舗の業務効率化のほか、利用者属性 等のビッグデータの収集・分析・活用といった「地域情報 プラットフォーム」としての役割も期待されます。

筑邦銀行は自行の営業エリアを中心に自治体等への電子商 品券発行の紹介や、導入した自治体等における発行体や加 盟店との間での換金業務(加盟店への売上金の振込)等を 行っています。同行はまちのわの取り組みを「中期経営計 画2024」の重点取組項目の1つである「新たなビジネスの 確立」に位置づけ、まちのわへの行員の出向に加え、銀行 内部でも「まちのわサポートグループ」を新設し、事業の サポートを行っています。

まちのわが専用アプリを提供する自治体等は、福岡県を中 心に全国に広がっています(2024年10月時点で全国119カ 所)。提供する専用アプリの主な機能は電子商品券の発 行・決済ですが、その他の追加機能については、自治体等 の要望に合わせてカスタマイ ズできることが特長です。

具体的には、交付金・補助金 の給付や災害情報などの地域 に関する情報発信、アプリ内 で自治体へのふるさと納税の 寄附と返礼サービスの付与が 即座に行われる仕組み(まち のわふるさと納税アプリ)の 提供などが行われています。

まちのわの入戸野 真弓 代表 取締役社長は「電子商品券の提 供だけが当社の目的ではな く、地域課題を解決し活性化 につなげていくことが重要」 としています。



▲ 西鉄久留米駅近くの百貨 店での写真。

まちのわが提供した実績のあるアプリー覧



▲ まちのわ作成資料より。

おわりに

ここまで3つの取り組みについて紹介してきましたが、どれも地域をより活性化させたいという強い思いのもと取り組んでいます。

少子化などの影響で地方の人口が減少し、将来の危機感を 感じている地域は少なくないですが、長年地域に寄り添い、 自治体や事業者、地域住民と接点を持っている地方銀行だからこそ課題解決に向けた提案を行うことができます。

みなさんがお住まいの地域や旅行先にも、今回紹介したような地方銀行がプロデュースしたアプリがあるかもしれません。ぜひ一度探して使ってみてください。

こちらのレポートはいかがでしたか?ぜひ、ご意見・ご感想をお聞かせください! ▷▷▷

クリック

or